

# 中国の記

## その11



大滝 邦彦 著

(V) 帰国して、中国を想う

(11) 中国紀行文を思い立つ



## (V) 帰国して、中国を想う (11) 中国紀行文を思い立つ

### (V) 帰国して、中国を想う

#### (11) 帰国して、中国紀行文を思い立つ

2011年5月初めに羽田を出発し、北京、淄博、泰山、洛陽、西安、九賽溝、樂山、峨眉山、昆明、広州、順徳、そして、大連を経て、6月初めに成田に着いた。大凡1ヶ月の中国旅行から無事に日本へ戻り、まずは、ダオヨウさんと連絡を取って、お互いの無事の帰還を確認し合うことにした。

淄博でお世話になった皆さんにお礼を挙げようということになり、日本文化を代表する浮世絵の絵図を染めた布を”礼物(贈り物)”として選び、その郵便の中に感謝の気持を表した”中文”を入れた。

「我们平安地回来了日本,请你放心吧。在淄博和泰山你给我们多多关照,非常感谢你。我们想把「浮世绘的染布」寄送你和你的朋友们一下。那个图案有美人画·富士山等,所以请你们因诸位爱好选择,好吗?那么,请你替我们向诸位问好。wǒmen píngān dì huílaile rìběn, qǐng nǐ fàngxīn ba. zài zībó hé tàishān nǐ gěi wǒmen duōduō guānzào, fēichang gǎnxiè nǐ. wǒmen xiǎng bǎ “fúshìhuì de rǎn bù” jì sòng nǐ hé nǐ de péngyǒumen yīxià. nàge tuān yǒu měirén huà · fù shì shān dēng, suǒyǐ qǐng nǐmen yīn zhūwèi de àihào xuǎnzé, hǎo ma? nàme, qǐng nǐ tì wǒmen xiàng zhūwèi wèn hǎo. (我々は無事に日本へ帰って来ましたのでご安心ください。淄博と泰山では、本当にお世話になりました。お礼に、「浮世絵入りの布」をお贈りします。その絵柄は美人画・富士山などとなっておりますが、皆さんのお好みによって、選んでください。では、皆さんによろしくお伝え下さい。)」

郵送を終わり、お茶を飲みながら今回の中国旅行の思い出話をし合ううちに、あることを思い付き、ダオヨウさんに宣言した。

「今回の中国旅行を紀行文に記して置こうと思います。」

この宣言に、ダオヨウさんからエールをもらった。

「期待して待ってますから、頑張ってください！」

ダオヨウさんのエールに背中を押され、まず、中国旅行の写真を見ながら出来事を思い起こし、その写真の横にメモ書きを付した。

次に、今回中国の方々(長城観光での北京へ里帰りしていたお母さん、淄博でのランユインさんと皆さん、洛陽への列車の中での中年の男性客、洛陽での水売りの小姐やおばさん、洛陽駅への車の運転手のおばさん、洛陽駅での女学生、西安への列車中での男性客と団体の皆さん、九賽溝への成都空港で一緒に過ごした皆さん、九賽溝のホテルの店のマスターと空港への車の運転手のお母さん、樂山へのバスの中の男子学生、峨眉山のホテルへのバスの中のおばさん、昆明の民族村のミャオ族のお兄さんと椰子の実売りの小姐、スーパー前のお茶売りの小姐、順徳での村長さん達、そして、大連での「ワーン」さん母娘)と語らった内容のポイントを箇条書きにした。

そして、本棚から中国に関わる本・地図などを取り出して、中国の歴史や地理などに関連する資料とした。

「古代文明」デアゴスティーニ・ジャパン、「世界史」学習研究社(斉藤整)、「世界史」成美堂出版(風間睦子・佐々木巧・塚原直人)、「中国正史の古代日本記録」葦書房(老岐一郎)、「古都洛陽、史記・三国志之路」(中川須美)、「夏王朝、王権誕生の考古学」講談社(岡村秀典)、「東アジアの古代文化」大和書房、「邪馬壱国の原

点倭」講談社（泉降式）、「DNAでたどる日本人10万年の旅」昭和堂（崎谷満）、「日本の古代（倭人の登場）」中央公論社（森浩一）、「日本国家の起源」岩波書店（井上光貞）、「日本古代の国家形成」講談社（水野祐）、「日本の歴史（倭国の誕生）」小学館（直木考次郎）、「日本古代史」旺文社（井上光貞）、「倭国」中央公論社（岡田英弘）、「日本人とは何か」小学館（江上波夫・梅原猛・上山春平・中根千枝）、「日本語の世界（日本語の成立）」中央公論社（大野晋）、「古層日本語の融合構造」平凡社（木村紀子）、「看図読古詩」金盾出版社、「中国地図冊」星球地図出版社、「総合世界・日本地図」共立設計社、「地球の歩き方（中国）」ダイヤモンド・ビッグ社、「岩波中日辞典」、「小学館中日辞典」、「ワニと龍」平凡社（青木良輔）、「論語」旺文社（鶴城紀元）、「日和下駄」岩波書店（永井荷風）、「共産党宣言」岩波書店（マルクス・エンゲルス、大内・向坂訳）、「経済学の終わり」PHP研究所（飯田経夫）、「中国よ変われ」学生社（方励之）、「裏切りの夏（背叛の夏）」青山出版社（虹影）、「看図読古詩」金盾出版社、「唐詩聴賞」中国唱片上海公司。

これらに、ランユインさんから戴いた「臨淄中国古車博物館（車葬・馬魂）」と洛陽で購入した「龍門石窟」龍門石窟研究員、そして、現地のパンフや「門票」の「長城」、「頤和園」、「龍門石窟」、「九寨溝」、「峨眉山旅遊図」、「雲南民族村」、「石林風景名勝区」、「南越王博物館」、「広州博物館」、「宝墨園」などを追加した。

その他は、パソコンでサイト上の「ウィキペディア百科辞典」、「百度百科辞典」、「Yahoo!百科事典」、「コトバンク」などを利用することにする。更に、必要となれば、一駅電車に乗って、「横須賀市立中央図書館」を利用することが可能である。

さて、いよいよ、2011年7月初めに、『中国の記』の初章、「(01)中国への旅立ち」を書き始めたが、中国に関連して記して置きたい事柄が雪だるま式に多くなって行った。

- (I) 中国の歴史をひもときながら、。
- (01) 中国への旅立ち (1) 北京へ (2) 北京に到着
- (02) 北京で (1) 長城へ (2) 頤和園 (3) 北京を歩く①天安門広場②王府井③胡同
- (03) 淄博そして泰山 (1) 「齊国」の古都「淄博」へ (2) 「淄博」の博物館
- (3) 「淄博」での歓迎会 (4) 魯国の「泰安」へ
- (5) 泰山登山 (6) 泰安での最後の晩餐会そして洛陽へ出発
- (04) 洛陽 (1) 洛陽へ中原に行く (2) 洛陽に到着 (3) 龍門石窟を観る
- (4) 洛陽を歩く
- (05) 古都、西安 (1) 西安へ (2) 半坡遺跡博物館 (3) 兵馬傭
- (4) 古都の城壁を歩く (5) 大雁塔：唐王朝と日本を想う
- (6) 古都西安を後に
- (II) 中国庶民と語らいながら、。
- (06) 九寨溝 (1) 九寨溝へ (2) 新九寨溝賓館に到着 (3) 九寨溝散策
- (4) 九寨溝黄龍空港そして成都へ
- (07) 成都と楽山・峨眉山 (1) 成都に到着 (2) 楽山観光 (3) 峨眉山へ
- (4) 峨眉山登山そして成都へ帰る
- (08) 雲南省昆明 (1) 昆明へ (2) 民族村：漢民族村がない！？ (3) 龍門石窟
- (4) 石林公園 (5) 雲南のお茶
- (III) 昔の中国を懐かしみながら、。
- (09) 広東省 (1) 広州へ (2) 広州を歩く①南越王墓博物館②鎮海楼③中山記念堂
- (3) 順徳県 ①順徳へ②清暉園③金頭④園林賓館⑤順徳県の夢
- (IV) 旧満州への玄関口、大連を経て日本へ
- (10) 旧満州への玄関口、大連を経て日本へ (1) 大連へ (2) 大連の美しい海 (3) 日本へ帰国

そして、「(IV) 満州への玄関口大連を経て日本へ」まで書き終わった現在は、2011年5月初めに中国へ出発し、6月初めに帰国してから2年が過ぎる2013年5月末となった。

この2年間に日中間には「尖閣諸島問題」の発生や日本と中国での「政権トップ交代」などの重なる出来事が起こった

。このような状況の中、中国についての想いを、今記している「(V) 帰国して、中国を想う」の「(11) 中国紀行文を思い立つ」に、「(12) 中国の現状と将来」として、” (1) 環境汚染問題 (2) 尖閣諸島問題と反日デモ(3) 格差社会の現状(4) 12次5カ年計画(2011年から2015年)の現状(5) 共産党独裁体制とそれに抗する民主化活動(6) 中国の将来を想う”を書き加えて、『中国の記』の最終章としたい。